

長野県革新懇ニュース

2021年12月号
発行日12月10日
会費 2,000円
購読料 3,000円(送料込)
振替 00510-3-15971



発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 青木裕子さんインタビュー
- 2面 1面続き、「近現代信州の歴史回廊」小平千文さん
- 3面 「衆議院選挙の結果について」他
読者の声、漢字パズル
- 4面 雨よ降れ「親ガチャ」に思う 窪島誠一郎さん
写真で辿る信州と戦争「戦争に協力させられる市民」北原高子さん
映画評論『これは君の闘争だ』 内山到さん

長野県革新懇

検索



軽井沢朗読館

朗読の魅力、面白さを

多くの人に知ってほしい

あおき ゆうこ
青木 裕子 さん

(一般社団法人軽井沢朗読館 館長・軽井沢町立図書館 顧問兼名誉館長)

人生の数々の失敗を朗読に乗せて伝える

Q 朗読館を始められた動機をお話ください。

NHKに就職してから37年間ずっとアナウンサーをしてきましたが、その間にはいろんな喜怒哀楽がありました。すごく辛いことがあった時、それを心の中に留めておいて過ごせるかという、苦しいですよ。そんな時に、何かに託してその気持ちを表現し、和らげたいと思うことがあります。

1950年福岡県生まれ。1973年NHKに入局。一貫して現場でアナウンサーを勤める。NHK総合テレビ「スタジオ102」のキャスター担当に始まり、「NHKニュースワイド」「おはようジャーナル」「くらしのジャーナル」などでキャスターやリポーターをつとめ、テレビ・ラジオで活躍。2010年6月の定年退職を機に軽井沢朗読館を私費で設立。2013年1月より軽井沢町立図書館館長。2020年4月より顧問兼名誉館長。その他にも数々の取り組みを手がける。日本文藝家協会会員。著書「再婚トランプ」(朝日新聞社)：1998年TBSの昼の連続ドラマ「再婚トランプ」の原作、「軽井沢朗読館だより」、近著は「朗読ワークショップ」(アーツアンドクラフツ)。

沢賢治の『銀河鉄道の夜』だったり、高樹のぶ子さんの『緑かがやく日に』だったり、いろんな作家の方が書いていらっしゃる文章に引き付けられて、それを読むことで声の世界を作ることができると思った時に、すごく魅力的に感じて仕事にしたいと思ったわけです。50歳ぐらいの時のことです。

朗読の魅力を発信する図書館をめざす

Q 図書館長になられた経緯をお話ください。

NHK時代には10年ぐらいで心の転機があつて、私の関心が変わっていききました。37年だから、3回位そういうことがありました。けれども、朗読だけは別でした。それまでの人生の数々の失敗を朗読に乗せて伝えることができるというところは、絵とか音楽とかに近い一つのアート、表現だと思っています。

定年間近になった時に、以前、番組制作の際にお世話になった自然保護団体の方からお電話があり、この地を紹介されました。当時、私は、余生は東京で小さなスタジオを作つて朗読の世界を追求したいと考えていたので、その思いをお伝えしたら、「それははぴつたりですよ」ということで、強く取得を勧められました。

そこで、友人達と下見に来たところ、夏場であるにもかかわらず涼しくて、素晴らしい環境で皆さんが建設を勧めてくれたので、大決心したわけです。ところが水質が最悪で、飲み水はもとより、炊事、洗濯、お風呂の水がなく大変苦労しました。ようやく5年前に水道が敷かれ、水のある生活ができるようになりました。

読書の活動を行なっています。

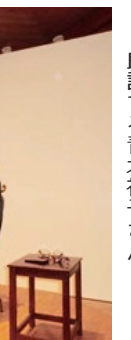
朗読会の在り方に決まった形はない

Q 朗読会はどんな形式で行なうのですか？

実は、私はあまり図書館長には向いていないと思うんですね。図書館に仕上げ通っていたわけでもないし、人よりも本を読んでいるわけでもありません。ただ、こちらに来て朗読会を開いて、3年続けていたので、それを町の方が見ていたのか、「新しい軽井沢町立の図書館が駅にできるから、館長やしませんか」というお話をいただきました。

お引き受けした時に、町の議員さんたちの前で抱負を話してほしいということでしたので、「全国的に小さな図書館がいっぱいあるけれども、最大のテーマはどういう特徴のある図書館にしていこうかということなんです。私が館長になったら、朗読という分野で全国発信できるような場所にしたいです。私にはそれ以外のことはできませんから」と言ったら、それでいいということ、7年間、館長をやつてきて70歳になったのですが、今度は名誉館長ということ、引き続きかわりを持っています。

今はコロナで制限していますが、基本はここを拠点に朗



朗読する青木裕子さん

朗読会では文学作品を朗読することに重きを置いていきます。一口に朗読と言っても文章を伝えようと思つて読めば、それは朗読なわけです。だから、人によってやり方が全然違うし、目的によっても全然違うので、朗読会とはこんなものだという事は言えません。日本語を喋る人が百人百様なように朗読会の方も全部違うわけです。

今はコロナであまり外へ出かけられないので、私は、軽井沢図書館で名誉館長朗読会という会を1年間のテーマを決めてやっています。毎月第2土曜日の午後2時から3時です。松家仁之『火山のふもと』や、万平ホテルのことを書いている三島由紀夫の『食道楽』、あるいは横溝正史の長編推理小説『仮面舞踏会』などです。『仮面舞踏会』は全部は読みきれないので、軽井沢の情景描写をしていく所のごく一部を紹介して、金田一耕助さんが跋扈する説明をしたり、一種の遊びみたいな感じでやっています。

社会派の番組を次々に世に問うた

Q NHK時代の思い出で印象に残っていることは？

はじめは、お天気お姉さんとかニュースのお姉さんとかいうことをやっていて、しばらくアナウンサーはアナウンサーだけでいいよという時代が続きました。しかし、私が40歳の頃からNHKもだいぶ方針が変わつてきて、自分でレポートを作つて放送してもいいということになり、いろんな社会派の番組を作ろうになりました。その中で私が作った二つの番組が印象に残っています。一つは、ハンセン病の方

【2面に続く】